

3-4

看護・介護・栄養課の連携によるターミナルケア

老いによる最期を迎える利用者とその家族との関わりを考える

ターミナルケア

施設での看取り

特別養護老人ホーム 青陽園

発表者：看護師 小川 弘恵	共同研究者：医務課長 河崎 孝江
所在地：東京都八王子市川口町1543	共同研究者：看護師 西室 雪美
TEL：042-654-4025	E-mail：main@seiyoen.com
FAX：042-654-4086	URL：http://www.seiyoen.com

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	東京都で8番目、八王子市で最初に来た、今年で43年目を迎える、長期入所140床、ショートステイ20床、計160床の施設です。
----------------------------	--

〈取り組んだ課題〉

- ターミナルケアとは何かを、看護・介護・栄養課で考えていく。
- ターミナルケアとしての全スタッフの関わり方、心構えを統一していく。
- ターミナルケアを行うために必要な知識・技術の習得。
- ターミナルケアを行うための条件
 - ・ご利用者の身体状況の把握
 - ・ご家族のメンタル面を考慮した分かりやすい説明と意思確認
 - ・夜間、医師・看護師の24h電話対応

〈具体的な取り組み〉

- 自然な機能低下を受け入れていくための、介護スタッフへのメンタル面のフォローをした。
- 急変時でも携わるスタッフが負担を感じないよう、ターミナルケアの目的を伝えていった。
- 2名の方のターミナルケアの実践
 - ・(Aさんのケース) ご家族のいる、高齢で延命を希望しないご利用者のケース
 - ・(Bさんのケース) 99歳男性、現在看取り同意書を頂いているご利用者のケース

〈活動の成果と評価〉

- ターミナルケアの研修をひらき、必要な知識の習得・技術の向上につながった。
- 介護課・栄養課との連携をとることにより、より良いケアができた。具体的には、医療行為をせず経口より摂取できるよう行った。
- 住み慣れた場所で迎える最期を、自然な形で看取することを目的とする。具体的には、ターミナルだからといい、安静重視ではなく通常のケアを行っていく。
- 外出・外泊の際のフォローをしていく（夜間の電話対応など）。

〈今後の課題〉

- ターミナルケア開始の見極めと、ご家族への働きかけの時期を考えていく。
- 病院ではなく、特養としての看取り介護をご家族に理解していただく必要がある。
- ターミナル者の外出・外泊へのこころみ。

〈参考資料など〉

【メモ欄】